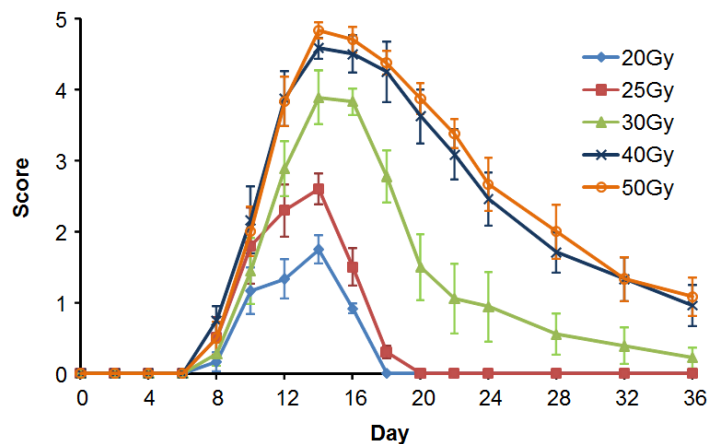


がん化学療法および放射線療法による口腔粘膜炎に関する研究

近年、新たな抗がん剤の開発やがん化学療法レジメンの確立は進歩しているものの、副作用は臨床上大きな問題となっている。副作用の一つである口腔粘膜炎はがん化学療法時の 30～40%、頭頸部放射線療法時の 100%に発症し、疼痛を伴うことから食事摂取量の減少やコミュニケーション機能の低下など患者の QOL を著しく低下させる要因となっている。特に放射線療法時の粘膜炎は、口腔内から咽頭に至るまで重篤な粘膜障害を引き起こす。しかし、現在のところ有効な治療薬剤はなく、臨床では局所麻酔や鎮痛・抗炎症薬による対症療法が行われているが、その効果は十分とは言い難い。また、放射線・化学療法時の口腔粘膜炎発症メカニズムには不明な点が多く残され、治療薬剤の開発が待ち望まれている。当研究室では、抗がん剤のフルオロウラシル(5-FU)を投与したハムスターの頬袋(チークポーチ)に口腔粘膜炎を作製することで、各種薬物の治療効果を検討してきた。

また、近年では放射線照射による口腔粘膜炎モデル(ハムスターおよびマウス)の作製、病態の解明および各種化合物の評価を行っている。

放射線誘発口腔粘膜炎と粘膜炎スコア



Watanabe et al. *Int J Radiat Biol.* 90:884-891 (2014).